

第 52 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	上島ゼミ	チーム名	はぴはぴらいふ
タイトル	日本の子供を幸せにするには		
テーマ群	g) その他		
メンバー	水野郁実 市川義人 高木元也 富島桃子 西山ちひろ 長谷川雄輝 福島優弥 矢野史佳		
研究計画内容	<p>【研究背景】</p> <p>ユニセフ（2019）によると、日本の子どもの「身体的幸福度」は先進国 38 カ国中第 1 位である一方で、「精神的幸福度」は 37 位だ。身体は健康にもかかわらず、心は不健康というパラドックスの状況にある。心身ともに大切であるのに、大きな差があることを疑問に思う。また、PISA2018 においては、「怖い」「心配」「惨め」「悲しい」に「いつも思う」または「たまに思う」と回答した割合はすべて OECD 平均より多いことが示されている。そこで、私たちは日本の子どもたちの精神的幸福度が低い要因を知りたいと思う。</p> <p>【研究内容】</p> <p>子供若者白書（2019）によると、13～29 歳を対象にした調査において「今の自分が好きだ」または「どちらかといえば好きだ」と回答した人の割合は 46.5%と半数以下で、「今の自分に満足している」または「どちらかといえば満足している」人は 40.8%にすぎない。また、過去に困難な経験をした人についてその理由を尋ねたところ、「人づきあいが苦手だから」が 55.4%、「何事も否定的に考えてしまったから」が 32.4%に上る。</p> <p>このことから、精神的幸福度の低さの背景には、自己肯定感や自信の欠如、社会的な孤立感や自分らしくいれる居場所の有無があると考える。</p> <p>わたしたちはまず、児童心理学や認知発達学から子どもが心身ともに健康に育つための条件を学ぶ。次に、他国の子育てや政府の支援策、新しい試みを開始した学校の成果などをインタビュー調査で明らかにする。以上の結果を踏まえて、子どもが幸せな社会を築くための家庭、学校、地域、政策の在り方を提言する。</p> <p>【期待される効果】</p> <p>精神的幸福度は身体的健康とともに重要視すべきであり、子どもが幸せな社会を作らなければならない。この研究を通して、そのために必要な条件を明らかにする。また、子どもの幸福度が改善することにより、自殺が減り、出生率の回復に繋がることを期待できる。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none">・ユニセフ・イノチェンティ研究所『イノチェンティ レポートカード 16 子どもたちに影響する世界先進国の子どもの幸福度を形作るものは何か』・OECD『PISA2018 Results (VolumeIII) :What school life means for students'lives』OECD 2022・内閣府子供若者白書 特集 1 子供・若者の意識と求める支援について <p>https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/r02honpen/s0_1.html (2022 年 10 月 26 日閲覧)</p>		